

調布市民プールのあり方に関する基本的な考え方(案) 主な修正・追加箇所

No	該当ページ	基本的な考え方(素案) 【パブリックコメント時】	基本的な考え方(案) 【第4回検討会 提示】	備考
1	本編 p3	<p>1970 年代以降, レジャーブームの定着や第二次ベビーブーム世代の増加を背景として, 主に子どもや家族をターゲットとした公営プール(主に屋外)が全国で次々と整備されました。</p> <p>その後 1980 年代半ば頃から急増したスイミングスクールやスポーツクラブ等の民間プール(主に屋内)は, 若年層の習い事, 競技者の練習拠点, 中高年層の健康増進というニーズを高めると同時に, 公営プールの需要を奪い, そしてバブル崩壊やレジャーの多様化とともに屋外の公営プールは供給過多に陥りました。さらに近年では, 猛暑やゲリラ豪雨など異常気象の増加もあり利用者が減少し, 自治体の財政難も相まって減少の一途をたどっています。</p>	<p>● 本文を以下のとおり修正</p> <p>1970 年代以降, レジャーブームの定着や第二次ベビーブーム世代の増加を背景として, 主に子どもや家族をターゲットとした公営プール(主に屋外)<u>やレジャープール</u>が全国で次々と整備されました。</p> <p>その後 1980 年代半ば頃から急増したスイミングスクールやスポーツクラブ等の民間プール(主に屋内)は, 若年層の習い事, 競技者の練習拠点, 中高年層の健康増進というニーズを高めると同時に, 公営プール(主に屋外)の需要を奪っていきました。<u>また, 1990 年代初頭に起きたバブル崩壊やレジャーの多様化もあり, レジャープールの設置数も平成 8(1996)年をピークに, その後は減少傾向</u>にあります。</p> <p>近年では, 猛暑やゲリラ豪雨など異常気象の増加もあり<u>安定的な運営が難しく</u>, 自治体の財政難も相まって, <u>利用が夏季に限られる屋外プール</u>は減少の一途をたどっています。</p>	より正確な表現に見直し
2	本編 p3	—	<p>● 図2-1に以下の注釈を追加</p> <p>※ 昭和 60(1985)年の調査までは, 水泳プールは「水泳プール(屋外)」と「水泳プール(屋内)」のみ。「レジャープール」の区分は, 平成 2(1990)年の調査より適用開始。</p>	より正確な表現に見直し
3	本編 p4	また, 東京都の消防統計によると, 熱中症による救急搬送者数は直近 5 年間で 2.5 倍に増加し, 過去最多を更新しています。	<p>● 本文を以下のとおり修正</p> <p>また, 東京都の消防統計によると, 熱中症による救急搬送者数は<u>近年増加しており, 令和7(2025)年度は過去最多を更新</u>しています。</p>	より正確な表現に見直し
4	本編 p4	● 図 2-3/令和 7(2025)年は8月末までの暫定値	● 図 2-3/令和 7(2025)年は 9 月末までの値で更新	時点更新
5	本編 p5	(近隣市におけるプール施設のあり方を見直す事例)	● 表 2-1/事例内容の具体化, 出典の追記	記載内容の充実
6	本編 p6	<p>調布市内の公営プールは, 調布市民プール(屋外)のほか, 総合体育館プール(屋内), 京王アリーナ TOKYO(武蔵野の森総合スポーツプラザ(屋内))があります。</p> <p>市立小・中学校においては, 基本的には屋外プールが整備されてい</p>	<p>● 本文を以下のとおり修正</p> <p>調布市内の公営プールは, 調布市民プール(屋外)のほか, 総合体育館プール(屋内), 東京都が保有する京王アリーナ TOKYO(武蔵野の森総合スポーツプラザ(屋内))があります。また, 市立調布小学校では屋内プールが整備され, <u>水泳授業で利用されていない時間帯は</u>市民</p>	より正確な表現に見直し

No	該当 ページ	基本的な考え方(素案) 【パブリックコメント時】	基本的な考え方(案) 【第4回検討会 提示】	備考
		<p>ますが、市立調和小学校では屋内プールが整備され、市民開放で一般利用されている他、試行的に民間による水泳指導も行われています。なお、調布市民西調布体育館の機能移転に伴い、調布中学校の敷地を活用して、スポーツ施設である体育館と併設した学校施設としての屋内プールを今後整備していく予定です。</p> <p>近隣自治体(府中市、三鷹市、狛江市、稲城市)では、いずれも屋内プールと屋外プールを保有しています。</p>	<p>開放で一般利用されています。</p> <p>このほか、市立小・中学校に屋外プールが整備されています。なお、調布市民西調布体育館の機能移転に伴い、調布中学校の敷地を活用して、スポーツ施設である体育館と併設した学校施設としての屋内プールを今後整備していく予定です。</p> <p>近隣自治体(府中市、三鷹市、狛江市、稲城市)では、いずれも屋内プールと屋外プールを保有しています。なお、三鷹市のSUBARU総合スポーツセンターの屋内プールは、調布市在住の方は三鷹市民と同一料金で利用可能となっています。※</p> <p>※ SUBARU総合スポーツセンターは、調布市と三鷹市が共同設置したごみ処理施設「クリーンプラザふじみ」で発生する電力を活用しているため、調布市在住の方も市民料金で利用できます。</p>	
7	本編 p6	—	<p>● 以下を追加</p> <p>(6) 調布市内の民間プールの現状</p> <p>調布市内には屋内プールを有した民間が運営するスポーツ施設が5施設あります(2025年11月現在)。いずれも月額会員制で、多くは調布駅や仙川駅、国領駅から徒歩圏内に立地しています。</p>	要素の追加
8	本編 p10	<p>調布市内の3つの公営プールのうち、通年利用できる屋内プールの総合体育館プールが最も利用が多く、10年間平均で年間約5万1000人が利用しています。一方、屋外プールで夏季営業のみの調布市民プールの利用者数平均は年間約2万7000人で、総合体育館プールの約半分の利用人数となっています。</p> <p>● 表2-5/3施設の合計欄あり</p> <p>● 図2-7/令和6(2024)年までの推移</p>	<p>● 本文を以下のとおり修正</p> <p>調布市が保有する公営プールのうち、通年利用できる屋内プールの総合体育館プールが最も利用が多く、10年間平均で年間約5万1000人が利用しています。一方、屋外プールで夏季営業のみの調布市民プールの利用者数平均は年間約2万7000人です。</p> <p>● 表2-5/3施設の合計欄を削除</p> <p>● 図2-7/令和5(2023)年までの推移</p>	より正確な表現 に見直し
9	本編 P31	<p>検討に当たっては、市内の公営プールの配置なども踏まえた地域バランスへの配慮や子どもの水遊び環境の確保、学校プールのあり方に関する市教育委員会の検討との整合など、幅広い視点を持ちながら、取組を進めていきます。</p>	<p>● 本文を以下のとおり修正</p> <p>検討に当たっては、市内の公営プールの配置なども踏まえた地域バランスへの配慮や子どもの水遊び環境の確保、学校プールのあり方に関する市教育委員会の検討との整合など、幅広い視点を持つつとともに、具体的な方策の実現に要する期間の対応についても留意しながら</p>	パブコメ意見反映

No	該当ページ	基本的な考え方(素案) 【パブリックコメント時】	基本的な考え方(案) 【第4回検討会 提示】	備考
		また、これらの方策については、後期基本計画の策定を見据え、スポーツ施設の老朽化や利用需要の変化への対応、地域バランスへの配慮など、地域の実情や将来の需要に応じた市スポーツ施設全体の配置や機能についての考え方や方向を整理する中で検討することとします。	<u>ら取組を進めていきます。</u> また、これらの方策については、後期基本計画の策定を見据え、市スポーツ施設全体の配置や機能に関する考え方を整理する中で検討することとします。	文言整理
10	本編 p33 ～	－	<ul style="list-style-type: none"> 資料編を追加 資料1 調布市民プールのあり方に関する検討委員会設置要綱 資料2 調布市民プールのあり方に関する検討委員会委員名簿 資料3 策定経過 資料4 調布市民プールの利用者数等の推移 資料5 調布市民プールの劣化度調査結果について 	資料追加
11	概要版 p3	<ul style="list-style-type: none"> 1970 年代以降、レジャーブームの定着や第二次ベビーブーム世代の増加を背景として、主に子どもや家族をターゲットとした公営プール(主に屋外)が全国で次々と整備された。 その後、1980 年代半ば頃から急増したスイミングスクールやスポーツクラブ等の民間プール(主に屋内)は、若年層の習い事、競技者の練習拠点、中高年層の健康増進というニーズを高めると同時に、公営プールの需要を奪い、そしてバブル崩壊やレジャーの多様化とともに屋外の公営プールは供給過多に陥った。さらに近年では、猛暑やゲリラ豪雨など異常気象の増加もあり利用者が減少し、自治体の財政難も相まって減少の一途をたどっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 以下のとおり修正 ● 1970 年代以降、レジャーブームの定着や第二次ベビーブーム世代の増加を背景として、主に子どもや家族をターゲットとした公営プール(主に屋外)<u>やレジャープール</u>が全国で次々と整備された。 その後、1980 年代半ば頃から急増したスイミングスクールやスポーツクラブ等の民間プール(主に屋内)は、若年層の習い事、競技者の練習拠点、中高年層の健康増進というニーズを高めると同時に、公営プール<u>(主に屋外)</u>の需要を奪っていった。<u>また、1990 年代初頭に起きたバブル崩壊やレジャーの多様化もあり、レジャープールの設置数も平成 8(1996)年をピークに、その後は減少傾向にある。近年では、猛暑やゲリラ豪雨など異常気象の増加もあり安定的な運営が難しく、自治体の財政難も相まって、利用が夏季に限られる屋外プールは減少の一途をたどっている。</u> 	本編に合わせ修正
12	概要版 p3	－	<ul style="list-style-type: none"> 図に以下の注釈を追加 ※ 昭和 60(1985)年の調査までは、水泳プールは「水泳プール(屋外)」と「水泳プール(屋内)」のみ。「レジャープール」の区分は、平成 2(1990)年の調査より適用開始。 	本編に合わせ修正
13	概要版 p4	<ul style="list-style-type: none"> 暑さ指数 WBGT の基準値を超える日数が増加傾向にある。また、東京都の消防統計によると、熱中症による救急搬送者数は直近 5 年間で 2.5 倍に増加し、過去最多を更新している。 	<ul style="list-style-type: none"> 以下のとおり修正 ● 暑さ指数 WBGT の基準値を超える日数が増加傾向にある。また、東京都の消防統計によると、熱中症による救急搬送者数は<u>近年増加しており、令和 7(2025)年度は過去最多を更新している。</u> 	本編に合わせ修正

No	該当 ページ	基本的な考え方(素案) 【パブリックコメント時】	基本的な考え方(案) 【第4回検討会 提示】	備考
	概要版 p4	● 右図／令和 7(2025)年は8月末までの暫定値	● 右図／令和 7(2025)年は 9 月末までの値で更新	本編に合わせ修正
14	概要版 p5	(近隣市におけるプール施設のあり方を見直す事例)	● 表／事例内容の具体化, 出典の追記	本編に合わせ修正
15	概要版 p6	<ul style="list-style-type: none"> 調布市内の公営プールは, 調布市民プール(屋外)のほか, 総合体育館プール(屋内), 京王アリーナ TOKYO(武蔵野の森総合スポーツプラザ(屋内))がある。 市立小・中学校においては, 基本的には屋外プールが整備されているが, 市立調和小学校では屋内プールが整備され, 市民開放で一般利用されている他, 試行的に民間による水泳指導も行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> 以下のとおり修正 調布市内の公営プールは, 調布市民プール(屋外)のほか, 総合体育館プール(屋内), 東京都が保有する京王アリーナ TOKYO(武蔵野の森総合スポーツプラザ(屋内))がある。また, 市立調和小学校では屋内プールが整備され, 水泳授業で利用されていない時間帯は市民開放で一般利用されている。 このほか, 市立小・中学校に屋外プールが整備されている。 三鷹市のSUBARU総合スポーツセンターの屋内プールは, 調布市在住の方は三鷹市民と同一料金で利用可能となっている。 	本編に合わせ修正
16	概要版 p7	<ul style="list-style-type: none"> 調布市民プールの利用者数の推移は, 開設以来, 減少傾向 屋外プールで夏季営業のみの調布市民プールの利用者数は, 総合体育館プールの約半分の年間約 2 万 7000 人 <p>図／令和 6(2024)年までの推移</p>	<ul style="list-style-type: none"> 以下のとおり修正 調布市民プールの利用者数は, 開設以来, 減少傾向で推移しており, 近年は, 年間平均で約 2 万 7000 人 <p>図／令和 5(2023)年までの推移</p>	本編に合わせ修正
17	概要版 p12	<ul style="list-style-type: none"> 検討に当たっては, 市内の公営プールの配置なども踏まえた地域バランスへの配慮や子どもの水遊び環境の確保, 学校プールのあり方に関する市教育委員会の検討との整合など, 幅広い視点を持ちながら, 取組を進めていく。 また, これらの方策については, 後期基本計画の策定を見据え, スポーツ施設の老朽化や利用需要の変化への対応, 地域バランスへの配慮など, 地域の実情や将来の需要に応じた市スポーツ施設全体の配置や機能についての考え方や方向を整理する中で 検討することとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 以下のとおり修正 検討に当たっては, 市内の公営プールの配置なども踏まえた地域バランスへの配慮や子どもの水遊び環境の確保, 学校プールのあり方に関する市教育委員会の検討との整合など, 幅広い視点を持つとともに, 具体的な方策の実現に要する期間の対応についても留意しながら取組を進めていく。 また, これらの方策については, 後期基本計画の策定を見据え, 市スポーツ施設全体の配置や機能に関する考え方を整理する中で検討することとする。 	本編に合わせ修正